

# 「戦闘」以前にも銃撃頻発

## 南スーダンPKO日報新たに開示

防衛省は十四日、南スーダン国連平和維持活動（PKO）に参加している陸上自衛隊部隊の昨年六月二日から九月十日までの日報を本紙に開示した。それによると、七月に首都ジュバで起きた大統領派と当時の副大統領派による大規模戦闘以前にも、六月から宿営地近くで銃撃が頻発し、部隊の緊張が徐々に高まっていたことが分かった。

日報によると、六月十四日午前二時五十三分ごろと同四時十二分ごろ、合わせ二十発の発砲音を確認した。日報は「事態の拡大は認められず、活動に影響ない」との見通しを記した。ところが二十日午後八時十

八分ごろにも、宿営地の北北西〇・五キロから、機関銃らしきものの射撃音七、八発を確認するなど、銃撃が相次ぐ。

これに合わせて、日報のジュバ市内の情勢に関するページは、記載事項を黒塗りして不開示とした部分が目立つようになる。七月一日には「市内の緊張の高まりによるハラスメント（嫌がらせ）に注意が必要」と情勢の悪化を記載。そして八日、戦車やヘリコプターが投入され、約二百七十人が死亡したとされる最大規模の戦闘にいたる。九日には宿営地近くで散発的な銃撃があり、十日には戦車砲弾が着弾する。

収束後の八月五日にも午後一時ごろ、軍用ヘリコプターが往来するなど活発な活動を確認。「郊外での戦闘が継続する可能性を示唆する」と緊張が続いているこ

とを記載している。

今回、防衛省が開示した日報は約六千九百頁。七月の大規模戦闘を挟み、緊迫する現地の情勢を記録している。防衛省は昨年七月七、十二日分についてフリージャーナリストの情報公開請求に対し、「廃棄済み」として不開示を決定。その後、省内から電子データが見つかり、六日分を公表していた。